

スクールワイド PBS 行動支援計画表 （7月：1 分前には着席をしよう）

ステップ 1：学校全体で増やしたい行動(標的行動)を決める。		
1 分前には着席をする		
ステップ 2：児童生徒に伝える「標的行動を行う理由」を考える。		
○ 落ち着いて学習を進めることが学力向上につながるから		
ステップ 3：標的行動の具体例を考える		
良い例		悪い例
○ 授業開始の 1 分前に着席し、心を静める。		○ 授業開始のチャイムと同時に慌てて、もしくは遅れて着席し、落ち着かない状態にいる。
ステップ 4：学校全体で標的行動を増やすためのきっかけ、行動、結果に対する具体的な支援を計画する		
きっかけ (わかりやすい状況を作る)	行動 (できるように確認・練習する)	結果 (望ましい結果を随伴させる)
○ 先生方 →授業の開始時間をスムーズに進めるための手立て例示する。 (例)・係をつくって児童が 1 分前を知らせている。 ・教師が前に立ち、黙想のモデリングをしている など →これらの結果をもとに、スムーズな授業開始のための手立てを確認する。方法については各先生方が自由に採用する。	○ 児童 →7月5日の業間の時間を使い、説明する。 →『1 分前着席』をしていない場合としている場合の児童の様子を視聴し、授業・学習への影響を確認する。 →さらに『1 分間の使い方』によって、その授業がさらに楽しいものになることを示す。 【方法】 ○ スライド・動画で提示	○ 先生方 →児童の様子を観察し、1 分前着席ができている様子が確認された際には、「すぐに」「具体的に」認め、ほめる。
ステップ 5：学校全体で児童生徒の標的行動の変容を評価するための記録方法を計画する		
○ 学級担任・専科の先生方 それぞれに記録用紙を配り、評価を実施してもらう。		
ステップ 6：全児童生徒や全教職員に支援結果をフィードバックする方法を計画する		
○ 職員には、キャンペーンの結果について用紙にてフィードバックする。		
○ 児童には、キャンペーンの結果を放送や掲示物を使って、知らせる。		
○ 保護者には、校長だよりを活用して知らせる。		

(3)応用行動分析学に基づく考え方

※大久保(2019)より

・適切な行動(してほしい行動)を促すためには？

